

Information Technology and the Market Economy 電子社会と市場経済

プロジェクトリーダー 竹 村 彰 通

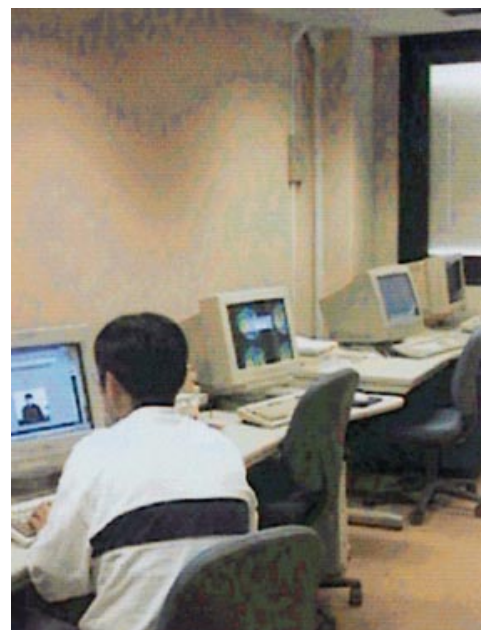
東京大学 大学院経済学研究科 教授



1. 研究の目的

情報技術の発展により社会は急速に電子化しつつあります。人間のあらゆる情報活動がデジタル化され、瞬時かつ大量の情報伝達が可能となってきました。経済学・経営学の観点から見ても、このような電子化の進展は、価格という間接的な情報の媒介機能を果たす市場のあり方、情報の集中調整の機能を果たす政府のあり方、生産や流通の情報を処理する企業のあり方、のそれぞれに大きな影響を与えています。

このプロジェクトの目的は、こうした「社会の電子化」が市場経済及びその中における企業の在り方に与える影響を、経済学・経営学の視点に基づき実証的に分析することによって、21世紀における経済システムの変化を予想し、それに対する政策や制度上の対応を評価・分析することにあります。経済学・経営学の分析手法の利点は、鋭利な理論モデルとモデルにもとづく現実のデータの実証分析の組合せにあります。本研究ではすでにこのような観点から初年度より理論と実証に基づく数多くの実質的な研究成果が得られています。これは本プロジェクトのメンバーの活発な研究活動によるもので、今後もさらに多くの成果が得られると思われます。これらの成果はただちに「21世紀の経済の全体像を語る」というような壮大な議論を展開しているものではありません。しかしながら、社会の電子化の影響は多面的であり、理論と実証に基づく着実な研究成果の積み重ねがこの問題に対する科学的なアプローチの基礎をなすものであると考えられます。本プロジェクトの研究成果の積み重ねの中から電子化の全体像も徐々に明らかになると期待されています。



2. 研究の内容

本プロジェクトは「電子化と経済システム」と「電子化と企業システム」の2つの部門から構成されます。これらにおいて、それぞれのリーダーを中心にサブプロジェクトとして押し進められている研究テーマは以下のようなものです。

・「電子化と経済システム」

(1) 電子化とホワイトカラー

電子化、情報化にともなってホワイトカラーの仕事の仕方、組織内における役割、さらに組織の構成原理・組織間関係がどう変化するかを分析します。

(2) 公的情報電子化の現状と展望

公的情報の電子化の現状を把握するとともに、技術的および制度的な側面に関する国際比較を通じて、我が国の今後の公的情報の電子化を展望します。

(3) 電子化と不動産・建設市場

電子化、情報化によって不動産・建設産業の活動がどう変化し、それが1.企業及び関係する公共部門の組織の内部構造や仕事の仕方、内外の分業関係をどう変貌させるのか、さらに2.都市における経済集積や都市住民の生活をどう変化するのか、を分析します。

(4) 電子化と市場パフォーマンス

電子化が市場経済に及ぼす様々な影響、就中、現在緊急の問題となっている1.電子化・情報化が資産市場の安定性に及ぼす影響、2.電子化と銀行の審査機能、3.電子化と技術進歩、の三点を対象を絞り、研究を進めています。

(5) 電子化と金融システム：電子マネーの可能性にかんする研究

急速な変化を遂げつつある内外の金融システムを電子化、情報化の観点から展望し、日本経済がそこから受けるインパクトや、さらには新しい産業発展の可能性を多面的に分析します。

・「電子化と企業システム」

(1) CAD/CAE が企業組織と競争行動に与える影響

1990年代半ば以降、3次元CAD（コンピュータ支援設計）およびこれと連動したCAE（コンピュータ支援エンジニアリング）の本格的な発達にともなって、大きく変容した製造企業の製品開発プロセス、組織、およびパフォーマンスに関し、実態調査や、大規模なサーベイ調査等を通じて体系的なアプローチを試みます。

(2) 電子化と企業組織

情報技術の発展や電子化がどのように企業組織の構造に変化を与えるかを、理論的・実証的に分析します。

(3) 電子社会とマーケティング戦略・リサーチ

社会の電子化にともなって大きく変化しつつある消費者行動および組織（民間企業だけではなく、非営利団体なども含む）のマーケティング行動（リサーチ、戦略）をケーススタディを端緒として研究を進めています。

(4) 電子商取引と企業間関係

経済活動の情報化の中で、電子商取引に焦点を絞って、その特性を分析し、それが経済活動の構造にどんな影響をもたらすかを分析しています。

(5) 流通と電子化

情報革命による流通システムとマーケティングの変革及び消費者行動の変化を実証的に研究し、そのデータ蓄積をベースに流通の効率と流通コストがどう変化し、マーケティング理論にどのような影響を及ぼすかを理論的に整理しています。

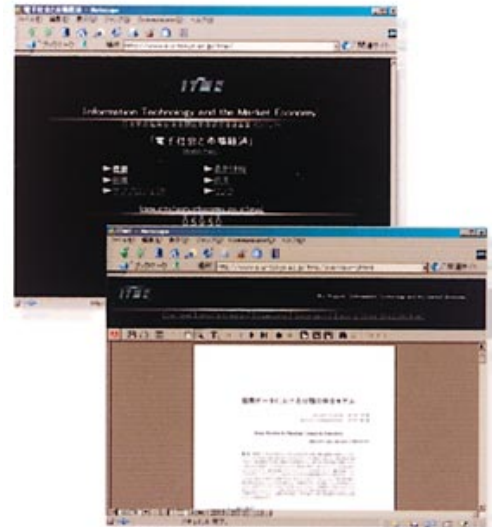


図1. : 本プロジェクトはホームページを通じて最新の研究成果をディスカッションペーパー、テクニカルマニュアル（共にPDF形式）として随時電子配信しています。平成11年11月現在31本のディスカッションペーパーが公開されています。またシンポジウム等の発表資料も公開されています。

ホームページアドレスは、
<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/itme>

電子化と経済システム	
サブプロジェクト名	リーダー
電子化とホワイトカラー	三輪芳朗（東京大学大学院経済学研究科、教授）
公的情報電子化の現状と展望	竹村彰通（東京大学大学院経済学研究科、教授）
電子化と不動産・建設市場	金本良嗣（東京大学大学院経済学研究科、教授）
電子化と市場パフォーマンス	西村清彦（東京大学大学院経済学研究科、教授）
電子化と金融システム：電子マネーの可能性にかんする研究	堀内昭義（東京大学大学院経済学研究科、教授）
電子化と企業システム	
サブプロジェクト名	リーダー
CAD/CAE が企業組織と競争行動に与える影響	藤本隆宏（東京大学大学院経済学研究科、助教授）
電子化と企業組織	柳川範之（東京大学大学院経済学研究科、助教授）
電子社会とマーケティング戦略・リサーチ	片平秀貴（東京大学大学院経済学研究科、助教授）
電子商取引と企業間関係	國領二郎（慶応義塾大学大学院経営管理研究科、助教授）
流通と電子化	下川浩一（法政大学経営学部、教授）

表1：サブプロジェクトのリーダー一覧
それぞれのサブプロジェクトでは、個別に研究会も行われています。

3. 研究の体制

期 間：1998年7月～2003年3月

構 成：プロジェクトリーダー1名を中心に二部門、計10個のサブプロジェクトが、計10名のサブプロジェクトリーダー（プロジェクトリーダーも兼務）と計21名のメンバーによって構成されており、研究分担者の総計は31名となります。さらに研究協力者として2名を加え、相互に協力して研究を進めています。

研究拠点：東京大学大学院経済学研究科